



添削など

我々は昨日まで学力選抜の採点で、欠席者などをのぞき456枚の「力のこもった」答案を採点していたわけだが、君たちは家庭学習期間だったので、明日からの期末考査に向け、さぞかし「力のこもった」学習成果をあげてくれたことと思う。特に、25Rの諸君には、学習面で大きな「活躍」の余地が残されているので、担任として今回の結果に大きな期待を寄せているわけである。ははは…。それはさておき、とにかく2年最後の考査である。このあと、土・日もはさまれることだし、ここは全力をふりしぼってほしいものである。

*

この間、3年生は国公立の前期試験に臨んでいる。どんな結果だったのか、早く報告を聞きたいところである。

もうマスコミでも発表されているが、日比谷からは今年も東大に推薦合格者が出た。東大で推薦が始まって以来、毎年合格者が出ていることになるわけで、なかなか立派なことである。さて、来年はどうなのだろう…と、25Rの諸君の顔を思い浮かべてみると…ははは…であるなあ…ははは。

ちなみに、今年合格した生徒は、私のところに添削指導に来ていた。で、合格の発表があった後、その報告に来てくれたのだが、二次向けの添削指導まで受けているから、まさかその生徒が推薦を受けているご本人だとは思ってもみなかったのでビックリした。やはり合格するような人は、どんな場合でも、また、どんな場合にも備えて、常に努力しているのだなあと感じたものである。

逆にいうと、例えば25Rでも、学習面で大きな「活躍」が期待される人ほど、残念なが

らこの家庭学習期間が十分に生かせていなかったりしているのではなかろうか。

*

来年の今ごろは、前期が終わってちょっとホッとしている頃かも知れない。が、同時に、私立の結果が出始めてもいるわけで、悲喜こももといったところかも。

3年生の授業そのものは、1月いっぱいまで終わりになる。その後は、各自自分の日程に合わせて受験に臨むわけで、基本的に3年生は家庭学習期間になるが、そうはいつでも、多くの先輩方と毎日顔を合わせていたことから分かるように、ほとんどの諸君が学校にやってくる。学校で勉強したり、個別添削指導を受けていたりするからである。

今年の添削で思い浮かぶ生徒は、たぶん君たちも知っている先輩だと思うが、塾や予備校にも通わず、受験するのも東大一校のみ。だから、センター試験以降は徹底的に我々を「活用」して、毎日学校で過去問を解いては我々のところに持ってきて指導を受けていた。いい結果に結びつくといいのだが。

塾や予備校でも添削指導してくれるところがあるかも知れないが、日常の授業や考査などの機会を通して、君たちの性格や成績、「クセ」をよくご存じの先生方が、それに合わせて添削してくださるところが、学校の添削の大きな強みといえるだろう。そういういい面をうまく活用して努力を継続した人が、最後の最後まで力を伸ばしてゆくのである。

しかし、そのためには、先ず自分の努力する姿勢を養うことが大切だ。その辺も含めて、これからの自分の学習姿勢を考えてほしい。